

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600294
法人名	有限会社 エイブル
事業所名	グループホーム 秋桜
所在地	福岡県田川郡川崎町田原248-32
自己評価作成日	平成23年5月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年6月8日	評価結果確定日	平成23年7月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になっても「普通の生活」を大事にしていきたいと考えて、大家族が暮らしているような広い空間を意識して作りました。毎年、利用者と家族、職員とその家族と一緒に泊で温泉旅行に行っています。理念にもあるが「ゆっくり いっしょに楽しんで とともに生きる」1日の流れもゆっくりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して9年目を迎え、家庭的で落ち着いた雰囲気の中、穏やかな日常を支援している当ホームからは、歴史や経験を重ねてきた安心感が伝わってくる。認知症ケアに真摯に向き合い、馴染みの職員による細やかな配慮と変化への気づきや早期対応により、入居者個々の普通の暮らしの営みを、さりげなく支援している。また、1ユニットのホームには看護職員3名の配置があり、医療機関との連携を図りながら、日常の健康管理や急変時の対応、最期まで寄り添った支援となるよう取り組んでおり、本人、家族の安心にもつながっている。入居者同士で補助しあいながら機能訓練が行われていたり、愛犬とともに散歩する賑やかな風景からは、日々の暮らしぶりを窺い知ることができる。現実や自らの役割と向き合いながら、地域や行政への働きかけを行っており、福祉拠点としての活動の展開にも取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の理解や意義については毎月のミーティングや毎日の申し送り等で実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスとしての独自の理念や方針について、振り返りや見直しの機会を持ちながら、本人本位の暮らしを支えるさりげない支援や、できることや役割づくりを大切にしたい支援となるよう、日々取り組んでいる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉祭りや運動会、文化祭等には参加し、利用者さんも楽しみにされている	自治会に加入し、地域の伝統行事への参加や、周辺の清掃活動等を行っている。地域の保育園運動会や福祉まつり、文化祭等の参加や見学を行っている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談などを受けた時はそれぞれ適切な事業所などを紹介して支援につなげている	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催してグループホームの取り組みなどを紹介したり、意見をもらっている	入居者、家族、介護保険課職員等の参加により定期開催されており、職員の参加も多い。地域行事に参加する際に、公民館のトイレが和式の為不便である等の現状を、行政担当者へ伝えている。地域住民の出席が少ない状況にあり、今後のメンバー構成の広がりに期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に認知症の理解を深めてもらうためホームの現状を伝えて連携をとっている	市町村担当者とは、運営推進会議への参加時等に情報の共有を図り、また、地域密着型サービス事業者連絡会の発足や、認知症サポーター養成講座開催に向けた働きかけを行っている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤帯以外は玄関の施錠はしていない、緊急時は家族の了解をいただいてから拘束する場合もあるが日常的には拘束をしないケアはできている	周辺症状と排泄ケアとの関連性にも視点を持ち、止むを得ない事例への対応についても、解除に向けて取り組み、実現に至った経緯もある。また、薬や言葉による抑制についても、意識を持った支援が行われている。日中は施錠せず、安全面への配慮や家族とリスクに関する認識を共有しながら、寄り添うケアを実践している。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても施設内研修をしている	

福岡県 グループホーム 秋桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修をしている、資料についても家族の方へ配布している、職員も自由に閲覧できる	権利擁護に関する制度について、これまでに活用に至った経緯はないが、家族へパンフレットを配布する等の情報発信を行っている。グループホーム協議会の主催する、制度に関しての外部研修にも参加している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族へ重要事項説明等で契約の時に説明をしている		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に利用者や家族の意見や要望を聞き運営に反映している	毎月の支払い時を含む日常的な来訪の際や、入居者全員も参加する家族会の開催時、運営推進会議、毎年恒例の家族旅行等を通じてコミュニケーションを図り、意見や要望の収集に努めている。家族支援に向けた外部研修へ参加している。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を聞いたり、会議の時に意見を聞き可能なことは運営に反映している	毎月、全職員参加のミーティングを行い、情報共有や活発な意見交換の場として活用している。備品の整備等、業務に関する意見や要望についても検討し、運営への反映に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等も出勤扱いにしている、労働時間についても希望を取り入れている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は経歴などで判断しており、年齢、性別に関係なく採用している。他の職員の意見を聞き当事業所の適任かの判断をしている	ハローワークを通じて求人を行い、一日実習を通じて、職員の意見も参考にしながら、採用を行っている。資格取得や外部研修参加へ向けた、積極的なサポートを行っており、スキルアップや自己実現につなげている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月のミーティングで人権教育をしている、日常の介護の場面でもその都度指導している	グループホーム協議会主催の研修や、様々な視点での認知症ケアに関する外部研修参加を通じて、人権教育、啓発に結び付けている。職員のストレスケアについての外部研修にも参加している。	

福岡県 グループホーム 秋桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の研修に参加している、希望する研修にも参加するよう声掛けしている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと合同で花見などの行事をしている、職員の交流もしている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の日常生活の状況を聞きとりながらニーズを探りサービスの提供を説明する、まずグループホームでの生活に慣れていただくようにする		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方の話をじっくり聞き共感する、利用者の状態に応じて支援していくが家族にも協力をお願いする		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームか他施設か判断して必要ならば紹介をするなどの対応をする		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から生活の知恵を教わったり、畑の作物や山菜の調理など教わることもある、共に生活している		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会やクリスマス会などに声掛けして一緒に楽しんでいる、毎年家族旅行を計画して家族にも参加して頂いている		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や美容院など今までの所へ行っている、友人や家族にも訪問も自由に来てもらっている	家族とのつながりを大切に支援しており、毎年、本人、家族、職員等の参加による旅行を、企画、実施している。また、馴染みの床屋や美容院の利用を支援している。家族とかがりつけ医、事業所間の連携を密にし、これまでの暮らしの継続や、これからの暮らし方の意向に寄り添えるよう支援を行っている。	

福岡県 グループホーム 秋桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えなど行い話をする機会を作る、居室で話がはずんでいるときは見守りをする		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先にも面会に行く、退去しても本人や家族との関係を大切にしている(お葬式にも参加する)		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に面接に行き家族や本人の話を聞く、情報を取り入れ支援に生かしている、日常生活の中で本人の声を聞き思いや希望・意向の把握に努めている	センター方式も活用しながら、家族や馴染みの職員との関係性の中で、思いや意向の把握につながるよう、本人本位の検討に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や本人、ケアマネジャーの話から情報を聞き柔軟な対応をしている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の個性を尊重し自由に時を過ごして行くよう支援している		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで利用者の状態を把握し全職員の意見を聞き、面会時に本人や家族の意見や要望も聴き介護計画に反映している	本人、家族の意向や状況を踏まえ、日々の申し送りや月例ミーティングにおいて、情報共有や検討が行われている。定期、及び変化に応じて、評価、見直しが行われ、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやミーティングで状態の変化があった場合は随時検討し介護計画の見直しをしている		

福岡県 グループホーム 秋桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅に外泊したり、家族で夕食、通院介助などの支援をしている。家族の希望により短期入所も受け入れている		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の方から情報を収集し、必要なものを取り入れる		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけ医と連携が取れている、定期受診以外にも病状に応じて電話相談や往診をしてもらっている、体調不良や病状悪化の早期発見に努めている	1ユニットに看護職員3名の配置があり、家族や医療機関との連携や情報共有を図りながら、本人本位の適切な医療活用となるよう支援している。希望による医療機関への受診を基本とし、状況に応じて随時相談や往診体制も確保している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化があればすぐに連絡して指示をうけている、夜間でも連絡可能なので安心している		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供を行い症状が安定すれば早期に退院できるよう医師や家族に相談する、面会に行き利用者に安心してもらい認知症の進行を少なくする		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族から重度化に伴う確認書をいただく、終末期においても本人や家族と話し合い希望に沿うように努めている、5人の方を看取っており職員も方針の共有ができています	入居時に、重度化における対応に係る指針を示し、明確、詳細に作成されている、事前指定書及び意思確認書を得ている。状況の変化に応じて再確認が行われ、本人、家族の意向に最期まで寄り添えるよう、職員の意識も高い。これまでの看取りへの取り組みは、認知症支援のあり方としてメディアにて紹介された経緯もある。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルがある、代表者や看護師にすぐに連絡し対応ができています		

福岡県 グループホーム 秋桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを電話の近くに掲示している、消防署の立ち合いで避難訓練をしている、近隣の区長からの協力もある。備蓄等も職員は認識している	昼夜を想定した避難訓練を実施し、地震等の自然災害への対応についての話し合いや、運営推進会議の中で、訓練の報告やシミュレーションを行っている。近隣の区長への協力依頼を行っている。消防署が近隣に位置している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報や事務所の棚に整備している、名前で呼ぶ時や言葉使い等を気をつけている、トイレ誘導もさりげなく声掛けしプライバシーを損なわないようにしている	様々な視点での認知症ケアに関する外部研修に参加しており、個々人を理解、尊重し、意思や意欲、持てる力を大切に捉え、寄り添うケアの実践に努めている。個々人の呼び名については、希望を聴いたり、了解を得て声かけを行っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や入浴、家事手伝い等は声掛けするが強制することなく自己決定して頂く、入浴拒否された時は時間をおき再度促すようにしている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく生活だといつも職員に言っている、利用者のペースに合わせて生活できるようにしている、買い物も自由に行けるようにしている		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院の利用もしている、化粧品も買いに行く、着替えも利用者と一緒に選んでいる		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きなもの、食べたい物を聞き献立に取り入れる、調理の下ごしらえなども一緒にしている、テーブル拭きや配膳・下膳などもしている	周囲で採れた山菜や、敷地内で育てた野菜が食卓を飾ることもある。バイキングメニューを取り入れたり、手作りおやつ作りを楽しんだり、「食」を楽しむための取り組みが行われている。嗜好の反映された献立作りや、調理準備や引き膳、テーブル拭き等に力を発揮してもらっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分量を記録している、食べやすい量や食材を工夫してバランスよく食べれるようにしている		

福岡県 グループホーム 秋桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週1回の訪問歯科の指導で、利用者の状態に応じた毎食後の口腔内のケアをしている		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレのサインを見逃さず誘導をし排泄の失敗を減らし、オムツ等の使用を減らすようにしている	排泄パターンの把握や、個別のシグナルを見逃さないようにしながら、声かけやトイレ誘導を行っている。ニーズを踏まえ、夜間も介助を行っている。食材や飲み物の工夫、運動等により、できるだけ自然な排便となるよう配慮している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便をチェックし運動や食事の工夫をして便秘予防をしている、医師から便秘薬を処方してもらおう方もいる		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好きな時間に毎日入浴できる、入浴剤や季節の(ゆづ湯など)行事も取り入れている	毎日入浴準備を行い、夜間の入浴も含め、個別の希望や状況にあわせた柔軟な対応が行われている。安全面への配慮を行いながら、できる限り個々の力を発揮してもらいながら、ゆっくりと入浴できるよう支援している。温泉への1泊旅行も実施されている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後はテレビをつけ職員と楽しんでいる、リビングで一緒に昼寝もします		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方された薬の説明書を個人別にファイルして職員が内容を確認できるようにしている		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法を毎週行い利用者は楽しみにされている、毎日に家事もできることは声掛けして役割分担している		

福岡県 グループホーム 秋桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>毎日の散歩や季節ごとの花見物など外出している、遠方でもお弁当持参で外出する、温泉にも行きます</p>	<p>周辺の散歩、家庭菜園やプランターで野菜や花を育てたりと、日常的に外出の機会がある。お金を所持し買い物に出かけたり、外食や温泉旅行にも出かけている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>外出時に自分で買い物をし、少量の金銭を家族から渡してもらっている</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>番号を忘れていたが希望すれば代わりにかけている</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>台所からリビングが見渡せ開放的な空間になっている、調理の匂いや音が伝わり五感に刺激を与えている、リビングには季節の花が飾られている</p>	<p>対面キッチンから食卓、リビングへとつながり、天井の高い開放的な空間となっている。食卓にある座り心地のよさそうな重厚感ある椅子や畳スペース、窓際のソファ等、それぞれの方にとってのくつろぎの場所が確保されている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>座敷やソファなど好きな場所で過ごしている</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>筆筒や椅子など好きなものを持参している、仏壇も持っている</p>	<p>表札が掛けられた各居室には、仏壇や筆筒、大切な写真や馴染みの品々が持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりも付けバリアフリーで安全ようにしている、夜間も灯りがついている。ADLの状態に応じて部屋替えもおこなう</p>		